

N1

問題1 _____の言葉の読み方として最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

1 社会活動に参加することで、人脈を広げることができた。

- 1 じんみゃく 2 じんまく 3 にんみゃく 4 にんまく

2 ^{すずき}鈴木さんは指摘がいつもの的確で、本当に賢い人だと思う。

- 1 するどい 2 かしこい 3 すごい 4 えらい

問題2 ()に入れるのに最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

3 私はこの土地で定職に就き、生活の()を築いた。

- 1 根拠 2 基盤 3 根源 4 基地

4 議論は難航すると思ったが、すぐに意見がまとまり、()結論が出た。

- 1 すんなり 2 うっとり 3 ふんわり 4 こっそり

問題3 _____の言葉に意味が最も近いものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

5 ^{たかはし}高橋さんにはかねがねお会いしたいと思っていました。

- 1 直接 2 ぜひ 3 早く 4 以前から

6 ^{はやし}林さんはそれを故意に捨てたらしい。

- 1 わざと 2 うっかり 3 いやいや 4 さっさと

問題4 次の言葉の使い方として最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

7 閑静

- 1 そのレストランは繁華街から外れた閑静な場所にある。
- 2 今日は朝から具合が悪かったので、会社を休んで家で閑静にしていた。
- 3 用事が早く済み、閑静な時間ができたので、映画を見に行くことにした。
- 4 日中はにぎやかな公園だが、夜になると急に閑静になる。

8 たやすい

- 1 弟は寝坊したらしく、たやすい物だけ食べて、慌てて出かけていった。
- 2 伊藤^{いとう}氏とは大学時代からの親友で、本音^{ほんね}が言えるたやすい関係だ。
- 3 せっかくの日曜日だから、ゆっくり休んでたやすく過ごそうと思う。
- 4 この問題は想像以上に複雑で、たやすく解決できるものではなかった。

問題5 次の文の ★ に入る最もよいものを、1・2・3・4から一つ選びなさい。

9 「アセビ」という、白い花を咲かせる樹木を漢字で「馬酔木」と書くのは、アセビには ★ _____ そうです。

- | | |
|------------|----------------|
| 1 由来する | 2 有毒成分があり |
| 3 状態になることに | 4 馬が食べると酔ったような |

10 家族の時間を大切にする夫は、つい _____ ★ _____ ありがたい存在です。

- | | |
|-----------------|------------|
| 1 本当に大切なものは何なのか | 2 私に |
| 3 仕事に夢中になりすぎる | 4 気づかせてくれる |

問題6 次の(1)から(3)の文章を読んで、後の問いに対する答えとして最もよいものを、
1・2・3・4 から一つ選びなさい。

(1)

人に従順な飼い犬は、もともとオオカミの仲間を飼^ない馴^ならしたものである。(中略)

ところが、「人間がオオカミを飼^ない馴^ならした」という話には謎が多い。犬が人間と暮らすようになったのは、15000年ほど前の旧石器時代のことであると推測されている。当時の人類にとって、肉食獣^{にくしょくじゅう}は恐るべき敵であった。そんな恐ろしい肉食獣^{にくしょくじゅう}を飼^ない馴^ならすという発想を当時の人類が持ち得たのだろうか。しかも犬を飼うということは、犬にエサをやらなければならない。わずかな食糧で暮らしていた人類に、犬を飼うほどの余裕があったのだろうか。また当時の人類は犬がいなくても、狩りをすることができた。犬を必要とする理由はなかったのである。

最近の研究では、人間が犬を必要としたのではなく、犬の方から人間を求めて寄り添ってきたと考えられている。犬の祖先となったとされる弱いオオカミたちは、群れの中での順位が低く、食べ物も十分ではない。そこで、人間に近づき、食べ残しをあさるようになったのではないかと考えられているのである。

弱いオオカミだけでは、狩りをすることができないが、人間の手助けをすることはできる。そして、やがて人間と犬とが共に狩りをするようになったと推察されている。こう考えると、当時、自然界の中で強い存在となりつつあった人間に寄り添うことは、犬にとって得なことが多かった。つまり、人間が犬を利用したのではなく、犬が人間を利用したかもしれないのである。

(稲垣栄洋『弱者の戦略』新潮社による)

11 謎が多いとあるが、謎に合うのはどれか。

- 1 犬ではなくオオカミを飼おうとしたこと
- 2 オオカミを肉食獣^{にくしょくじゅう}だと思わなかったこと
- 3 恐ろしいオオカミを飼って利用しようと考えたこと
- 4 狩りの邪魔になるのに恐ろしいオオカミを飼おうとしたこと

12 筆者によると、どのようなオオカミが犬の祖先だと考えられるか。

- 1 人間から頼りにされたオオカミ
- 2 狩りの上手なオオカミ
- 3 群れから追い出されたオオカミ
- 4 群れの中で下位のオオカミ

13 犬の祖先が人間と暮らすようになったきっかけについて、筆者はどのように考えているか。

- 1 人間を利用して仲間からの危険を避けようとした。
- 2 人間に近づいて食糧を得ようとした。
- 3 人間が狩りの手助けをさせた。
- 4 人間がエサを与えた。

問7 次の文章を読んで、後の問いに対する答えとして最もよいものを、1・2・3・4から

一つ選びなさい。

暮らしの中で身近な木といえば、街路樹と公園の樹木、そして住宅の庭の木あたりでしょうか。いずれも毎日目にはしているものの、あらためて意識することは少ないと思います。でも、例えばこれがすべて枯れてしまったとしたらどうでしょう。なんとも寂しく、無味乾燥な、あるいは何か病気を連想させるようなイメージのまちになってしまうのではないのでしょうか。また、昨今は、維持管理の面などから街路樹を植えないまちなどもあるようですが、一見近代的、未来都市的なイメージもしますが、うるおいややすらぎのないまちのようにも見えます。このようにまちの樹木は、実はとても大きな役割を持っています。

では、この木々たちは、ただ植えるだけ、存在するだけでいいのでしょうか。そうではありません。そこに意味や意義がなければならぬのです。わかりやすく言うと、街路樹の樹種^{じゅしゅ}を何にするかというようなことです。その土地の植生を踏まえ、その上に歴史性や未来性を重ね合わせる。季節の移ろいの中で、人々がその木をどのように眺めながら暮らしていくのか。そんな積み重ねの上にはじめて「ここにはこの木を植えよう」ということになる。それがその木がその場所に存在する意義です。

①
住宅の庭木も同じです。単に自分の好みばかりでなく、その木が住宅街の小路をどのように演出するのか、まわりとの調和はどうなのか。そんなことを考えていくのがまちづくりの中の「木」です。昨今のガーデニングブームで、確かに個々の家の庭は立派になりました。花や木の種類もずいぶん増えて、ひと昔前には無かったような色や形も見られます。そして、ガーデニングをする人達の情報交流も盛んとなり、新たなコミュニティも生まれているようです。しかし、いま一つ自分の土地から外に広がっていない感じがします。道路や公園は地域にとっての共有の庭であり、個々の部分と共有の部分が美しくなってこそはじめて全体が美しくなるのです。美しく楽しい庭を作っている人々には、もっと欲張って美しく楽しいまちを作ってほしいと思います。

「愛でる^め」という言葉があります。これは主に植物に対して使われます。満開の桜や初夏の新緑、真夏の木陰や秋の紅葉……。私たちは折々に木々を眺め、そこに日々の暮らしを重ね合わせたり、育ちゆく木々に子供達の明るい未来を願ったりしているのではないのでしょうか。そしてそんな思いをこめて水やりや手入れをする。これが「愛でる^め」という

ことだと思うのです。その愛^めでる心と愛^めでられる木々があつてはじめてよいまちとなるのです。

(加藤美浩『まちづくりのススめ』による)

(注1) その土地の植生：その土地にどのような植物が生えているか

(注2) 折々に：ここでは、機会があるごとに

14 筆者によると、まちの樹木の大きな役割とは何か。

- 1 人々に木が身近な存在であることを意識させる。
- 2 人々に未来都市的なイメージを与える。
- 3 人々を現実の煩わしさから逃れさせる。
- 4 人々を落ち着いた気持ちにさせる。

15 ①それとはどういうことか。

- 1 その土地に暮らす人々の好みに合わせた樹木を植えること
- 2 その土地の特性と人々の暮らしを考慮し、樹木を植えること
- 3 その土地の歴史的な樹木を大切にし、保存すること
- 4 その土地の季節の移ろいを感じさせる樹木を大切にすること

16 ②もっと欲張ってとあるが、筆者の気持ちと合うものはどれか。

- 1 自分の好みだけではなく、まち全体との調和も考えてほしい。
- 2 ガーデニングをする人達同士で、もっと情報交換をしてほしい。
- 3 個々の庭の花や木が、さらに美しく育つようにしてほしい。
- 4 個々の庭よりも、まちの共有の部分のほうに力を入れてほしい。

17 筆者の考えに合うのはどれか。

- 1 人々がまちの木々を愛^めでることで、子供達が自然に関心を持つようになる。
- 2 人々がまちの木々を愛^めでることが、よいまちづくりにつながる。
- 3 人々がまちの木々の手入れを怠らなければ、よいまちになる。
- 4 人々が季節による木々の変化に関心を持つことで、愛^めでる心が生まれる。